

一般社団法人 日本化学連合

平成 27 年度事業報告

日本化学連合が「任意団体」から「一般社団法人」に移行してから 6 年目となり、中尾真一会長のもと、副会長、理事、監事が継続して運営にあたり、化学系 16 学協会の連合組織として活動を展開した。

昨年度と同様に、運営委員会では化学コミュニケーション賞 2015 の実施、企画委員会では第 9 回日本化学連合シンポジウムの実施、また将来構想委員会では規程類の見直し、役員等候補者推薦委員会の改訂、政策提言WGを立上げ、活動を行った。

1. 会員の増減と会費収入ならびに補助金収入

正会員の会員数は 16 学協会であり、会費収入は約 445 万円であった。賛助会員の会員数は団体 2、個人 10 であり、会費収入は 43 万円であった。正会員の会費は昨年度より減額となっている。

また、27 年度も（株）化学工業日報社および（一社）化学情報協会より本連合主催事業「化学コミュニケーション賞 2015」の活動に対し、計 100 万円（@50 万円）の共催金を受けた。

2. 日本化学連合平成 27 年度活動報告

2.1 正会員学協会会長・事務局長会

昨年度に引き続き、正会員 16 学協会（クロマトグラフィー科学会、ゼオライト学会は欠席）の会長（代理出席を含む）と事務局長を招聘し、11 月 2 日に開催した。開催前に各学協会宛に事務局長会での意見をまとめたアンケートを行った。中尾会長から本連合として支援可能な提案についての説明があり、事前に送付集計したアンケート集計データを提示し、支援策に対する意見交換会を行った。終了後、懇親会を開催し、各学協会の懇親を深めた。

2.2 正会員学協会事務局長会（平成 26 年度事業）

5 月に開催した第 3 回事務局長会で発表した学協会は、化学工学会、日本化学会、日本セラミックス協会、日本地球化学会、日本分析化学会、有機合成化学協会であり、各学協会の課題や問題点を共通認識するとともに、可能ならば本連合からその解決策を提案することとした。

2.3 化学コミュニケーション賞 2015

日本化学連合では設立の趣旨である『化学関係団体が賛同して開催する事業』を強化発展させるため、わが国において化学・化学技術に関係する啓発活動や情報発信などにより、化学教育、化学産業の育成、発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を平成 23 年度に創設した。本年度（平成 27 年度）も「化学コミュニケーション賞 2015」を主宰した。

今年度も昨年に引き続き理事（運営委員会委員）を中心として「化学コミュニケーション賞 2015」の企画、立案、募集を実施した。

[運営委員会]

委員長	村松 淳司（代表理事・副会長）
副委員長	関根 泰（理事 石油学会）
委員	五十嵐 哲（常務理事）
委員	鞠谷 雄士（理事 繊維学会）
委員	里川 重夫（理事 ゼオライト学会）
委員	瀬川 幸一（元常務理事）
オブザーバー	中尾 真一（代表理事・会長）

本年度の「化学コミュニケーション賞 2015」は(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、(独)科学技術振興機構、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催により 2015 年 11 月 1 日から募集を開始した。

2016 年 1 月 10 日に締め切り、個人 8 件、団体 5 件、合計 13 件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2015 賞選考委員会]

委員長	村松 淳司 (東北大学 多元物質科学研究所 教授)
委員	五十嵐 哲 (日本化学連合 常務理事)
委員	一井 朗 (化学情報協会 理事 企画管理室長)
委員	内田麻理香 (著述家/サイエンスライター)
委員	岡野 知道 (ライオン(株) 研究開発本部長 執行役員)
委員	佐藤健太郎 (サイエンスライター)
委員	里川 重夫 (成蹊大学 理工学部 教授)
委員	関根 泰 (早稲田大学 先進理工学部 教授)
委員	安永 俊一 (化学工業日報社 企画局 局長)
委員	渡辺 政隆 (日本サイエンスコミュニケーション協会会長/筑波大学教授)

これらの応募案件について、あらかじめ選任された上記選考委員により書面審査を行ったうえ、2016 年 2 月 5 日に開催した最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞 3 件 (個人 1 件、団体 2 件) および審査員特別賞を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞 (個人)

受賞者: 廣木 一 亮 (津山工業高等専門学校)

業績の課題: 舎密開宗の再現実験を通じた津山洋学の普及・啓蒙活動

化学コミュニケーション賞 (団体)

受賞者: 一般社団法人 触媒学会

業績の課題: 触媒技術の一般向け実験展示活動

化学コミュニケーション賞 (団体)

受賞者: 千葉県科学館ボランティア 化学コミュニケーション活動グループ

業績の課題: 科学館と企業を繋ぐ市民による化学普及活動

審査員特別賞 (個人)

受賞者: 市橋 宏 (天津市立日吉台小学校)

業績の課題: 小学校理科教育の支援活動

賞の授与式は、3 月 16 日開催の第 9 回日本化学連合シンポジウム「「化学とアウトリーチ活動」- 色彩の化学を中心に -」 (化学会館 7F ホール、13:00~19:00) の席上で行われた。

2.4 第 9 回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは企画委員会が担当し、第 1 部では、『「化学とアウトリーチ活動」- 色彩の化学を中心に -』を取り上げる。今回は、色彩を中心とした化学教育について、学会アウトリーチ活動の事例や色彩に関連する科学を切り口として議論することを目的として開催する。第 2 部では、本連合が化学・化学技術に関する啓発活動、情報発信を通じ、「化学」を社会に浸透させ相互の理解を深めることに貢献した個人や団体を顕彰する「化学コミュニケーション賞 2015」の表彰式を行った。

[企画委員会]

委員長	澤本 光男	(代表理事 副会長)
委員	小柳津研一	(一 早稲田大学 先進理工学部)
委員	唐津 孝	(理事 光化学協会)
委員	立間 徹	(理事 電気化学会)
委員	山元 公寿	(一 東京工業大学 資源化学研究所)

第9回日本化学連合シンポジウム

「化学とアウトリーチ活動」- 色彩の化学を中心に -

日時：平成28年3月16日(水) 13:00 - 19:00
 会場：日本化学会 化学会館 7階ホール
 主催：(一社)日本化学連合
 後援：(独)科学技術振興機構、(株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会、
 (一社)日本サイエンスコミュニケーション協会

プログラム

第1部 「化学とアウトリーチ活動」- 色彩の化学を中心に - <13:00 - 15:40 >

《司会 日本化学連合 常務理事)五十嵐 哲》
 主催者挨拶 日本化学連合 会長 中尾 真一
 講演1 「多様化する学会アウトリーチ活動とその意義」 早稲田大学 小柳津 研一
 講演2 「色彩の化学に着目した学会アウトリーチ活動」
 講演2-1 「日本化学会関東支部：少年少女のための講演会」 東京工業大学 松下 祥子
 講演2-2 「高分子学会関東支部：最先端高分子-未来の夢をかなえる材料！」 上智大学 竹岡 裕子
 講演3 「ナノ粒子とその色彩：紀元前から未来まで」 東京大学 立間 徹
 講演4 「小中高生のための台所理科実験：植物色素で遊ぶ」 筑波大学 小林 正美

第2部 表彰式「化学コミュニケーション賞2015」 <16:00 - 17:00 >

《司会 日本化学連合 理事 里川重夫》
 選考委員長挨拶・選考結果説明 日本化学連合 副会長・化学コミュニケーション賞選考委員長 村松 淳司
 授与式 日本化学連合 会長 中尾 真一
 業績紹介

1. 舎密開宗の再現実験を通じた津山洋学の普及・啓蒙活動
(津山工業高等専門学校) 廣木 一 亮
2. 触媒技術の一般向け実験展示活動
(一般社団法人 触媒学会) 原 孝佳
3. 科学館と企業を繋ぐ市民による化学普及活動
(千葉県科学館ボランティア化学コミュニケーション活動グループ) 室谷 定一

閉会の挨拶 (日本化学連合 常務理事) 五十嵐 哲

第3部 交流会 <17:15 - 19:00 >

シンポジウムの参加者は一般参加者37名、招待参加者6名、講師5名、化学連合役員12名、合計60名で、盛況であり、講演内容も充実しており、成功裏に終了した。

3. 会計

平成27年度は会費収入以外に賛助会費、共催金(化学工業日報社、化学情報協会より)をもって活動する予算を立て、「化学コミュニケーション賞2015」、「第9回日本化学連合シンポジウム」の企画・実施に注力した。順調に予算を執行したが、会費収入減により次期繰越金は約10万円のマイナスとなった。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 27 年度は以下の企画が実施された。

4-1. 平成27年8月7日（金）、高分子学会グリーンケミストリー研究会主催の第4回グリーンケミストリー研究会シンポジウムに本連合として協賛を行った。

5. 将来構想委員会

昨年度に引き続き、将来構想委員会を1回開催し、役員等候補者推薦委員会規程の整備および各学協会から化学連合への要望と政策提言について検討した。

[将来構想委員会]

委員長	岩澤 康裕	(代表理事 副会長)
委員	秋山 隆彦	(理事 有機合成化学協会)
委員	阿尻 雅文	(理事 化学工学会)
委員	大塚 浩二	(理事 クロマトグラフィー科学会)
委員	川島 信之	(理事 日本化学会)
委員	小松 隆之	(理事 触媒学会)
委員	丹羽 修	(理事 日本分析化学会)
委員	長谷部伸治	(理事 化学工学会)
委員	山下 仁大	(理事 日本セラミックス協会)
委員	山本 鋼志	(理事 日本地球化学会)
委員	横山 祐作	(理事 日本薬学会)
委員	渡邊 正義	(理事 高分子学会)

5-1. 政策提言WG (改称：政策提言・情報発信推進WG)

岩澤将来構想委員会委員長を中心に、WGメンバーが結成され、活動を開始した。

委員長	岩澤 康裕	(代表理事 副会長)
委員	秋山 隆彦	(理事 有機合成化学協会)
	阿尻 雅文	(理事 化学工学会)
	川島 信之	(理事 日本化学会)
	関根 泰	(理事 石油学会)
	横山 祐作	(理事 日本薬学会)

第1回：平成 28 年 2 月 2 日（火）メンバーの顔合せ、提言内容の検討を行った。

第2回：平成 28 年 4 月 5 日（火）当連合のありかたや将来構想、さらに化学・化学技術の現状分析について、自由討論を行った。

第3回：平成 28 年 7 月 26 日（火）開催予定

6. 情報発信

本年度は化学連合ニュースを4回発行した。正会員、賛助会員、役員、委員に送付しており、平成 28 年 2 月下旬に 94 号「化学コミュニケーション賞 2015」受賞者選考の報告を発行した。

7. 処務の概要

7.1 理事会 4 回
社員総会 1 回

7.2 理事 22 名、監事 2 名

7.3 委員会など

運営委員会	1回
(化学コミュニケーション賞企画・実施、会費の改定)	
企画委員会	1回
(シンポジウム企画・実施)	
将来構想委員会	1回
(規程類の改定、将来構想の検討)	
政策提言WG	2回
(改称：政策提言・情報発信推進WG)	
会長・事務局長会	1回
顧問会	1回
役員等候補者推薦委員会	1回

以上